

令和5年度

私費外国人留学生入試

【 人間学群 心理学類 】

区 分	標準的な解答例又は出題意図
「小論文」問題 1 (英語)	<p>1. 「小論文」問題 1 (英語) 出題意図、採点要領</p> <p>1-1. 問題文の選定・出題理由</p> <p>問題文は、2014 年に Psychology Today に掲載された、Michael Karson による「Punishment Doesn't Work」の一部を抜粋したものである。本誌は学術誌ではなく、一般対象者向けに学術的見解を紹介している。問題文は、心理学における重要なトピックである学習に関する内容であり、文章の難易度の面からも、外国人受験生にとって適切なものになっていると判断し、選定した。</p> <p>問 1 は、問題文の罰に関する逆説的な見解に関して、該当する英文の理解と、日本語による表現力を評価することを目的としている。</p> <p>問 2 は、受験者が本記事の内容を正確に理解したうえで、問いの意図を理解し、自分の意見を明確かつ論理的に、適切な日本語でまとめられるかどうかを評価することを目的としている。</p> <p>1-2. 採点要領</p> <p>(1) 試験問題は日本語と合わせて 90 分で、辞書の持ち込みは許されていない。</p> <p>(2) 問題は全部で 2 問ある。英文を題材として、英語の読解能力および日本語による論述能力を問う問題である。</p> <p>(3) 各問の問題文、採点基準、解答例は以下に示す通りである。</p> <p>問 1 ラットを用いたどのような実験から、罰には効果がないことが示されたか、200 字以内で説明しなさい。</p> <p>&lt;採点基準&gt;</p> <p>(1) ラットがレバーを押すように訓練された後で、報酬が得られない状態(オMISSION)に置かれたときのレバー押し行動について述べられていること。</p> <p>(2) その後、今度はレバーを押すと罰が来ることを学習させることが述べられていること。</p> <p>(3) レバー押しと罰の連合が消えると、ラットは再び、報酬が得られたあとと同じ回数レバーを押すようになることが述べられていること。</p> <p>(4) 適切な日本語が用いられていること。</p> <p>&lt;解答例&gt;</p> <p>レバーを押すと報酬が得られることを条件づけたあと、レバーを押しても報酬が得られないようにすると、ラットは 100 回レバーを押したあとであきらめた。続いて、レバーを押すと今度は罰が来ることを経験させると、ラットはしばらくレバーを避けるようになる。しかし、レバーと罰の関係が消去されると、ラットは再び 100 回レバーを押すようになった。このことから、罰は報酬へのモチベーションを変化させないことが示された。(199 字)</p> <p>問 2 下線部の理由を本文の内容に即してまとめるとともに、親は子供に対してどのように対応するのがよいと思うか、あなたの考えを 300 字以内で述べなさい。</p> <p>&lt;採点基準&gt;</p>

- (1) 本文の内容を正確に理解し、2つの理由を適切に説明できていること。
- (2) (1) を踏まえた上で問いに対して適切な内容が論じられていること。
- (3) 論理的で、首尾一貫した明晰な記述がされていること。
- (4) 適切な日本語が用いられていること。

<解答例>

親が子供に罰を与えるのには2つの理由があり、1つ目は、罰を与えることで、親の前では問題行動が一見抑制されて子供が従順な行動を示すようになること、そして2つ目は、親の怒りの破壊衝動を子供にぶつけることで、子供が泣いたり動揺する姿が親にとって報酬価値を持ちうるということである。しかし、罰を与える対象(親)がいないところでは子供の問題行動が改善しないことを考えると、罰による行動矯正にはあまり意味がないと思われる。怒りの感情が昂っているときは特に相手を傷つけてしまいやすいので、一息ついて怒りが収まったところで、子供自身がその行動が問題であることを理解できるように、理性的に話し合うと良いと思う。

(295字)

「小論文」問題2(日本語)

2. 「小論文」問題2(日本語) 出題意図、採点要領

2-1. 問題文の選定・出題理由

この文章は2021年に刊行された森口佑介氏の『子どもの発達格差：将来を左右する要因は何か』の内容を抜粋、一部改変したものである。「実行機能」を専門とする発達心理学者の森口氏は、本書の中で、現代の子どもたちには大きな格差がみられることを指摘する。本来、今を楽しみつつ、未来にも備える子どもが、「今を生きる」子どもと、「未来に向かう」子どもに分かれてしまっているというのである。森口氏は、実行機能に着目し、実行機能が高い人は、目の前の障害や誘惑に惑わされず、目標を達成することが可能な人であり、このような人を「未来に向かう人」と呼ぶ。一方、実行機能が低い人は、目の前のことを優先してしまうため、「今を生きる人」とされる。本書では、「今を生きる」子どもと「未来に向かう」子どもの格差は将来に直結し、「今を生きる」子どもたちは、将来、健康面でも経済面でも、不利に立たされる可能性が高く、「未来に向かう」子どもたちは、これらの面で有利である可能性が高いことを指摘するが、このように子どもが発達してきたことは、どちらの子どもも自分が生きる環境に適応した結果であることを述べている。そして、発達格差の実態、発達格差が生じる要因、発達格差の是正について論を進めている。子どもの発達を、実行機能、向社会的行動、他者に対する信頼、の三点からとらえ、マッシュマロテストというよく知られた研究をていねいに紹介することで、現代社会の問題をわかりやすく平易な日本語で一般の読者向けに述べており、問題文として適切であると考え、選定した。

問1は、「マッシュマロテストの成績を高める要因」を2点読み取れているかどうかを確認することにより、論旨を読み取る日本語の読解力を評価することを目的としている。本文を正しく理解できていれば、本文に書いてある内容から解答を導くことができる。

問2は、「マッシュマロテストの成績が子どもの将来にどのように関係するのか」という点についての日本語の読解力を評価し、さらに「マッシュマロテストの成績を高めるにはどのような養育環境が望ましいか」について、受験生の考えを問う問題である。論理的思考の展開力、論述における論旨の明確性、論理性、および論述力を評価することを目的としている。

2-2. 採点要領

- (1) 解答時間は、外国語と合わせて90分間である。辞書の持ち込み

は許されていない。

(2) 問題は全部で2問ある。日本語の文章の理解と、その内容に関する自分自身の考えを論述する能力を問う問題である。

(3) 問題文、配点、採点基準、解答例は以下に示すとおりである。

問1 マシュマロテストの成績を高める要因について、本文中では大きく二つのことが指摘されています。その二つとは何と何か、答えなさい。

<採点基準>

(1) 「実行機能や自制心(の高さ)」と「他者への信頼(の高さ)」という本文中に書かれている2つのことを適確に答えているか。

<解答例>

実行機能や自制心(の高さ)

他者への信頼(の高さ)

問2 マシュマロテストの成績が子どもの将来にどのように関係するのかを述べ、そのうえでマシュマロテストの成績を高めるにはどのような養育環境が望ましいか、あなたの考えを400字以内で述べなさい。

<採点基準>

(1) 「マシュマロテストの成績が子どもの将来にどのように関係するのか」を、適確に述べているかを評価する。青年期については、「青年期の学力や対人スキルなどが良好であり、問題行動が少ないこと」が述べられているか、大人になってからのことについては、「自尊心や健康状態が良好であること」が述べられているか。「子どもの将来」であるので、青年期と大人になってからの両方を明確に分けて書いていなくても差し支えない。

(2) 「マシュマロテストの成績を高めるにはどのような養育環境が望ましいか」について、自分の考えが適切に述べられているかどうかを評価する。問1を受けて、「他者への信頼」を高める養育環境について、「実行機能や自制心」を高める養育環境について、どちらについても書かれることが期待されるが、問2では、どちらか一方のみに着目して論じていても差し支えない。

(3) 論理的で、首尾一貫した明晰な記述であるか。

(4) 日本語として適切な文章であるか。

<解答例>

マシュマロテストの成績が良い子どもは、青年期の学力や対人スキルなどが良好であり、問題行動が少なく、大人になってからの自尊心や健康状態が良好であることが報告されている。マシュマロテストの成績には、実行機能や自制心、そして他者への信頼が反映されているため、それらを身につけられるような養育環境が必要となる。出生直後から養育者との関係が生じることを考慮すると、子どもが実行機能を発達させるよりも前に、他者への信頼は発達し始めると考えられる。したがって、養育者が子どもに対して温かい言葉かけをし、子どもの要求に対して応答性の高い行動を取り、他者への信頼を形成させることがまず重要であると私は考える。また、実行機能には脳の発達が関与するため、脳の発達を促進するような環境、すなわちストレスの少ない環境や栄養の取得に困難のない環境が望ましく、一定の経済的水準を維持することもまた重要であると私は考える。

(395字)